

緑を守る グリーンサポート隊



私たちは「子どもたちに緑を残してあげたい」という気持ちで森の保全活動をしています。町の中に、カブトムシが取れたりベビーカーを押して散歩できる緑豊かな場所があるのは幸せなことです。活動には町外の方の参加や初期から参加している企業もありますが、もっと町民がこの緑の価値に気づき、自分たちで三芳町の緑を守っていくことが必要だと思います。地域で第2第3のグリーンサポート隊が結成されたら嬉しいですね。

三芳の緑の価値に気づいて！



②みよしグリーンサポート隊
町の自然と歴史と人の繋がりを守る活動をするボランティアグループ。平成21年に発足し、活動回数は100回を超える。

みよしグリーンサポート隊 代表 原 芳彦 さん

四季折々の自然を楽しむならココ！

多福寺

川越藩主柳沢吉保が建立した三富開拓農民の菩提寺。凜とした静寂の中で、季節の色彩を楽しむことができます。
【住所】三芳町上富 1542



木ノ宮地蔵堂

子授けや安産、子育てにご利益のある地蔵堂。毎年4・8月の23・24日は縁日が開かれ、本堂の貴重な天井画が見学できます。
【住所】三芳町上富 1501



豊かな自然は、三芳の宝。



①新緑がとてもきれいな藤久保の平地林。②夏になると姿を現すカブトムシ。農家の野菜の裏に居ることも。③秋の訪れを知らせてくれる鮮やかなピンク色のコスモス。

自然を守りつなぐ役目

私たちの生活に欠かせない自然。しかし、自然は黙っていても豊かになる訳ではなく、その裏には、自然を守ろうと活動している人がいることを私たちは決して忘れてはなりません。

りと、真冬の寒さを微塵も感じさせないほど落ち葉と触れ合う子どもたちの姿がそこかしこに見られます。
2つのイベントには、先人から受け継いできた自然の恵みを体感できるという共通点があります。



【写真】体験落ち葉掃きで「ハチホンバザミ」と呼ばれる大きな籠に落ち葉を詰め込む子どもたち。こぼさないように落ち葉を運ぶのも一苦労です。



↑世界一のいも掘りまつりでの一コマ。柔らかい土をかき分けて、大きなさつまいもご対面です。

火

山灰土に厚く覆われ水に乏しく、作物の育ちにくい土地だった三芳町を含む武蔵野の大地。江戸時代、人工的に木を植えて地下水を豊かにし、平地林として育てました。落ち葉を堆肥にして畑にすき込み土壌改良。その結果、この地でもさつまいもやほうれん草、大根、ニンジンなどの美味しい露地野菜が栽培できるようになりました。

体感して守りつなぐ自然。

豊かな自然と緑を残し、未来へつなぐために――。

THE RICH NATURE OF MIYOSHI

こうした農法が320年以上にわたって都市近郊で続いていることが評価され、2017年「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が日本農業遺産に認定。
今もなお、多くの農家が伝統農法と先人たちの想い、そしてつくり上げた自然を守り続け、町の魅力として未来へつなぐたいこうとしています。

自然の恵みを体感する

三芳町では、毎年9月下旬に「世界一のいも掘りまつり」、1月中旬に「体験落ち葉掃き」が開催されます。
約1000人が参加するいも掘りまつりでは、老若男女がフカフカの土を手でかき分け、自分の顔以上もある大きなさつまいもを掘り上げます。
体験落ち葉掃きでは、落ち葉を熊手で掃くだけでなく、持ち上げたり、落ち葉の中に潜ったり



↑こぶしの里の幻想的なホタルの舞。運が良ければ手のひらにホタルがとまることも。

これだけの自然があることを誇り、その恵みに感謝して将来につないでいく役目が私たちにいるのではないのでしょうか。まずは、その魅力を体感してみることから始めてみませんか。